

図書館だより

'04.01

あたらしい学問のはじまり

吾田 富士子 (保育学科)

しっかりやるんだよ
 これからの本統の勉強はねえ
 テニスをしながら商売の先生から
 義理で教はることでないんだ
 きみのやうにさ
 吹雪やわずかの仕事のひまで
 泣きながら
 からだに刻んで行く勉強が
 まもなくぐんぐん強い芽を噴いて
 どこまでのびるかわからない
 それがこれからのあたらしい学問のはじまり
 なんだ
 ではさようなら
雲からも風からも
 透明な力が
 そのこどもに
 うつれ.....

(宮澤賢治「春と修羅 第三集」より
 [あすこの田はねえ] の一節)



宮沢賢治詩画館
 くもん出版 1993 本館 918.6 || Mi89k || 14

目次

あたらしい学問のはじまり1
 吾田 富士子
 駒形克己のしかけ絵本4
 杉浦 篤子

司書の卵 図書館情報学課程を受講している皆さんに
 お聞きしました!! Part 26
 受入担当者のつぶやき7
 データベースの紹介8

保育者となって無我夢中で過ごしていた私は、藁をも掴む思いで学生時代のノートを引っ張り出しました。そこには驚いたことに、今まさに私が実践の中から読み取っている子どもや保育の姿があったのです。よくよくみれば、遠い昔の異国の、先人達の言葉でした。今、私が発見したことが、既に何世紀にも及んで語られ、世界中の周知の事実であるのみならず、更なる展開がなされていることを知った時の驚きははかりしれません。それは学生時代の私自身の怠慢への後悔が頭をよぎった瞬間でもありました。「学問」とはこういうことだったのか……。

同じことは、大学に編入学した時にもありました。若い学生たちが私語に熱中していた講義の一こまで、教授の語る熱心な言葉、あるいはとつとつとしたつぶやきの中に、私が思い巡らせていた事柄にぴったりくる言葉が語られ、自分の思いが定義づけられた瞬間がありました。それは大抵、大昔の哲学者たちの思想であり、多くの若者はその言葉の意味を「教養」として、あるいは「知識」として知っていたのです。多くの雑音や雑念にまみれた日常の一こまで、脈々と流れる歴史を思い、今ここで学ぶ私自身もこの歴史の中に存在していることを実感し、一人目頭を熱くし、感動に打ち震えていたことなど、きっと当時の教授たちは知らなかったでしょう。



冒頭の詩は、賢治が農学校の生徒を思って書いたものと思われまます。幼いながら家族を養っていかなければならない立

場になり、学校を離れ田を耕しながら生きていく生徒に対する励ましと、賢治の祈りが込められています。



この詩を、特に卒業を控えた学生の皆さんに送ります。就職活動に明け暮れた一年が過ぎ、社会人になる期待と不安でいっぱいのことと思います。これから出会うこと、そこから得るもの、新たに出会う人、感じること、そういったことの全てが皆さん一人一人にとって「本当の勉強」なのであり、新しい学問のはじまりだと思うのです。大学で学んだことは、今は「教養」や「知識」として皆さんの頭の中にあります。しかし、それがいつか再び皆さんの経験と結びついた時、生きた学びや問いとなり、新たな学問の芽となって皆さんに迫ってくることでしょう。そして、学び、問い続ける、長い「学問」人生のはじまりとなるはずです。

改めて自身を振り返っても、多くの子ども達や保護者の方たちと出会い、また同僚の先生たちからも多くのことを学びました。例えば、保育の現場では「僕、昨日まで〇〇に行っていたんだよ。」と言っては皆から羨ましがられ、あんなこともこんなこともしたよと友達に説明する子がいるかと

思うと、登園途中に見つけた蟻に夢中になる子もいて、時には踏みつぶしながら来ることもありました。やがて年長になり、人に対する思いやりや動物への愛情を持つようになったのは蟻をつぶしていた子どもであり、このことから「経験」するという意味を教えられました。現代は様々な経験が容易な時代です。遠くに行くことも、遠くのものを見近に見ることも瞬時に可能となりました。しかし、その「経験」が、やがてその子どもの中で熟成され、「生きた」経験となるのは、幼い子どもの場合、もっと身近な出来事の中にあるのではないかと感じます。そうした「生きた」経験の土台となるような原体験を、風や雲や太陽、土や草、動植物などの自然の力を借りて行なうのが保育の営みなのではないでしょうか。

ルソーの自然の教育も、John Dewey の“learning by doing” やO.F.ボルノーの「問うことへの教育」も、全て子どもが私に教えてくれました。学生時代に私の体を通り抜けてしまって記憶にも残っていない知識の断片が、「生きた」知識となって私に迫ってきたのです。

また、若輩な保育者に育児の迷いや困難さを真剣に語り、時には涙ながらに一人の人間としての悩みを本音で語ってくださった保護者から、子どもの保育を真剣に考えることは、親の生き方を真に支えることから始まることも理解しました。特に障がい児の親からは生きる勇気と励ましを与えられました。命に対する畏敬の念を実感したのもこの時です。

理論と実践は、学問を構成する両輪です。理論を軽んじる者も、実践に価値を置かない者も誤りでしょう。研究者の中には理論化を追求するあ

まり、実験室でしか通用しない理論を提唱する人もいます。逆に実践現場では、しばしば実践のみを重視し、それを理論化することを疎かにする人も目にします。理論を実践に結びつけること、実践を理論化することはこれからの皆さんの課題です。学問の方法を既に皆さんは知っているのです。実践を人に伝わるように言語化していく努力を怠らないで、人に伝わる言葉を持ってください。

では、さようなら

.....雲からも風からも

透明な力が

みなさんに

うつりますように.....

参考資料

『新校本宮澤賢治全集第四巻詩Ⅲ』（筑摩書房）

『エミール』（上）（中）（下）ルソー著（岩波文庫）

『民主主義と教育』（上）（下）デューイ著（岩波文庫）

『問いへの教育』O・F・ボルノー著（川島書店）

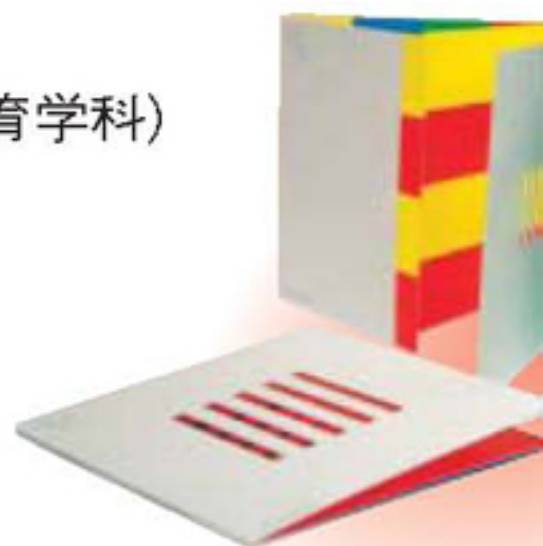


駒形克己のしかけ絵本

杉浦篤子（保育学科）

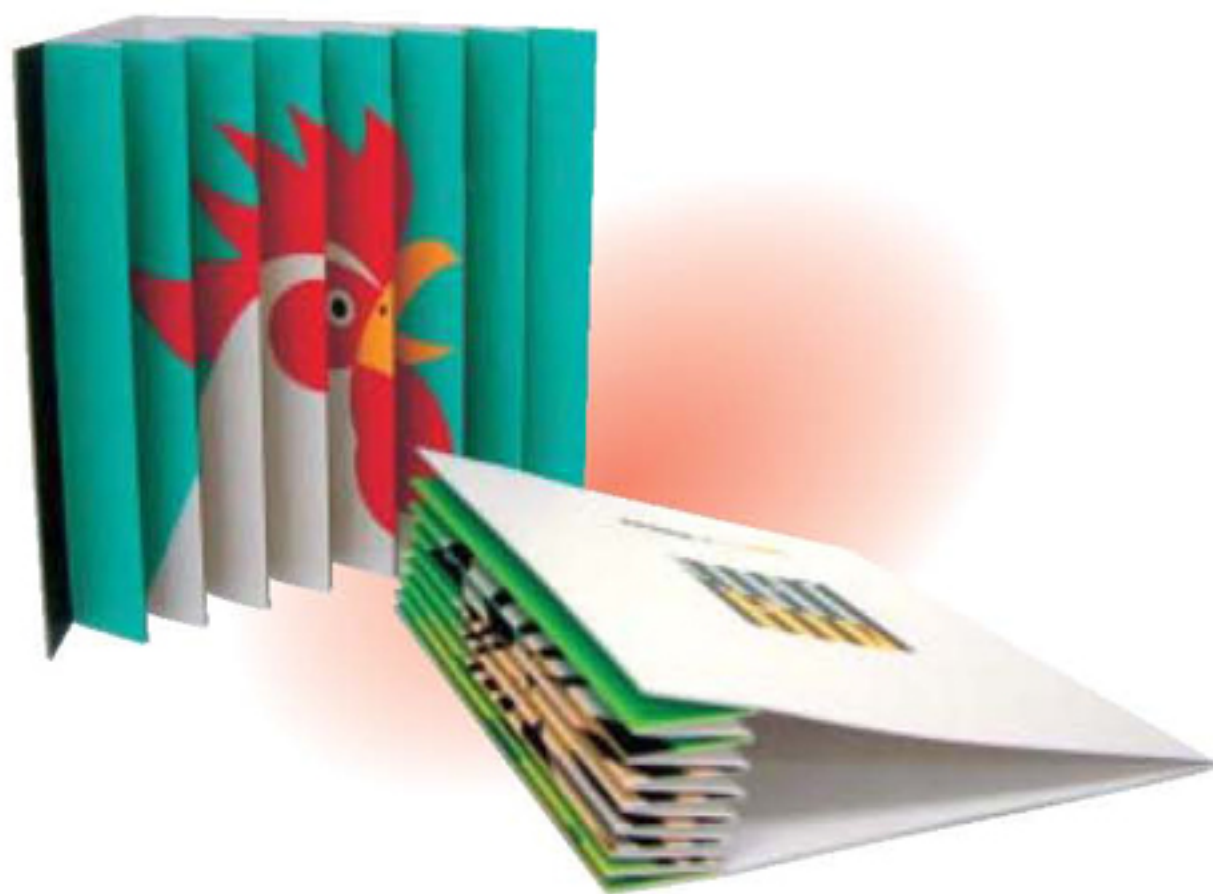
大人にも子どもにも「絵本は好きですか？」とたずねたら、おそらく90%以上の人から「好き」という答えが返ってくるだろう。しかし絵本は子どもの領分という認識は強い。最近「大人のための絵本」、「大人が読むべき絵本」などと題してテレビや雑誌に取り上げられる機会が増えているように見受けられ絵本を楽しむのは子どもだけではないということがやっと認められつつあるようだ。「絵本を読む」ということでとらえられてきたものが、絵本の美術的表現性、つまり視覚的、身体的表現性が意識され、「絵本を見る」ということを楽しむ、一つの造形作品であるということが認識されるようになってきたのではないだろうか。駒形克己の作品も大人が楽しむに十分な魅力を備えたものである。

駒形克己は1953年、静岡に生まれている。グラフィックデザイナー。はやくから仕掛けのある絵本の制作を行ってきたが、スパイラル絵本、リトルアイシリーズなどで第一人者の仲間入りを

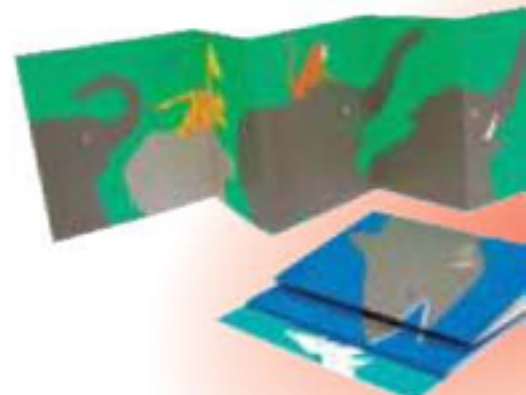


・ Play with colors <Little eyes> 駒形克己作 偕成社
花川録 376.19 |

している。文章の組み方に、めくって直線的に進んで行くことができないという本の方向性を生かしたスパイラル絵本が生かすの目を引くために、あの手の、安っぽい、壊れやすい、本なのかおもちゃなのか、と、形性、色彩感覚、視覚的表現もは気に入ったものなら、目の絵本作家でありデザイナー、強く受け、今や伝説的にも「PREBOOKS」をほろほろから、なんとも羨ましい限りののはやはり1995年に出版さ



・ Walk & look <Little eyes> 駒形克己作 偕成社 1992 花川録 376.19 || Ko56 || 9

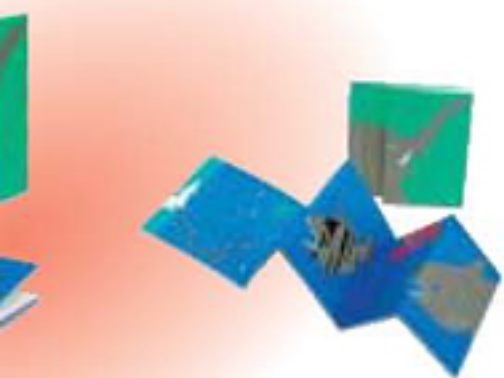


・ The animals <Little eyes> 駒形克己作 偕成社



成社 1990
|| Ko56 || 3

まっつて、右へ、あるいは左へページを
く、絵を描く場合もこの方向性は無視
を変えたかった、ということから渦巻
まれた。仕掛け絵本というと、子ども
の手のテクニクを駆使しているも
、すぐに飽きてしまう一過性のもの、
という評価があるが、駒形の作品は造
現性に優れている。壊した場合も子ど
自ら直すと駒形自身が言う。イタリア
であるブルーノ・ムナーリの影響を
なっている「霧の中のサーカス」や
になるまで子どもと遊んだというのだ
りである。数多い作品の中で、出色な
された「ぼく、うまれるよ」だろう。



1992 花川録 376.19 || Ko56 || 7



・ Green to green 駒形克己作 One Stroke 1994 花川録 376.19 || Ko56
・ Blue to blue 駒形克己作 One Stroke 1994 花川録 376.19 || Ko56
・ Yellow to red 駒形克己作 One Stroke 1994 花川録 376.19 || Ko56



・ ぼく、うまれるよ! 駒形克己作 One Stroke 1995 花川録 376.19 || Ko56

「本の中に仕掛けをつくるというのは、色々リスクが発生する。形態が製造上可能かどうか。すぐ壊れてしまわないか。仕掛けを繰り返し体験できるのか。コストはどうなのか。どれをとっても頭を抱える問題ばかり。それでも仕掛けを必要とする。なぜ？」
「娘が4歳の頃、ある日突然、母親の胎内での話しをした。プワーンと浮いている感じだったという話しに触発され、この本が出来上がった」母親と子どもを結ぶ、へその緒を表現するには仕掛けが必要だったと言う。そして駒形自身が本に対してこのように言っている「私は本を道具として考える。例えばトンカチ一本あっても、何の役にも立たない。道具とはそういうもの。釘や釘を打つ場所が必要になる。私にとっての本は、子どもとのコミュニケーションを育むための道具である」。絵を描く絵本作家、ではない人の絵本を楽しんでもらいたいものである。

司書の卵

図書館情報学課程を受講している 皆さんにお聞きしました！！

Part 2

図書館だより66号でも紹介しましたが、前号に引き続き図書館情報学課程を受講している皆さんに、アンケートをとった際に出てきた意見・疑問にお答えしたいと思います。



★ DVDやビデオを貸出して欲しいと思うが、なぜ一部を除いて貸出不可か？

→ “著作権”という言葉をご存知ですか。著作権法の関係上、図書館で所蔵している映像資料は一部の資料を除いては貸出できません。

★ 雑誌記事索引のID・パスワードを入力してもらわないと利用できないのは不便。

→今年度から、図書館ホームページのリンク集にある国立国会図書館の雑誌記事索引(NDL-OPAC)を使ってもらうようになりました。こちらは、ID・パスワードの入力をせずに利用できます。

★ 本を保存するのに、一番いい室温はどのくらいか？

→低ければ低いほど良いのですが、当然利用者が快適に過ごせる温度でなくては困るので、20℃、できれば18℃に保てれば望ましいですね。

本の保存には、温度だけではなく湿度も重要なポイントで、55%くらいに設定されていればとても良い状態といえるでしょう。

「図書館と資料保存－酸性紙問題からの10年の歩み－」

安江明夫・木部徹・原田淳夫編著 雄松堂出版 1995より

★ NDCは何版を使っているのですか？

→基本的には第6版に則って分類をしています。但し、分野によっては新しい版を使用しているものもあります。

- ★ 学生に望むこと（例えば、早く本を返して欲しいなど）は何ですか？
- ★ 利用者である学生に対する要望や苦情はありませんか？

みなさんが、図書館に対して“こうして欲しい”という要望があるように図書館としても、マナーを守って欲しいと思うことは色々あります。

いくつかの例を挙げると、

- ・図書館での飲食は禁止です。ペットボトル等の持ち込みも原則として禁止です。
- ・携帯電話の電源は切って入館して下さい。メールの送受信をしている姿もよく見かけますが、控えてもらいたいです。
- ・返却の際、資料に付箋がついたままだったり、鉛筆の書き込みがあるのをよく目にします。図書館の資料は、共有財産だということを認識して、お互いに気持ち良く利用できるようにしましょう。特に、今の季節は本の水濡れが多くなる時期です。返却の期限を守り、借りたときと同じ状態で返却するように心掛けてもらいたいです。

最後になりましたが、ご協力いただいた皆さんありがとうございました。



受入担当者のつぶやき

学生のみなさん、こんにちは。みなさんは日頃、閲覧室で本を借りたり、勉強したり、さまざまに時間を過ごしていますね。ところで、みなさんが借りる本、勉強に使う本、それらはどのように購入されているのでしょうか？実は図書館事務室で働いている図書受入担当が購入全般（発注・検収・支払いまで）をこなしています。

本の購入をしているとは言っても、受入担当が車に乗って書店に買い付けに行っているわけではありませんよ。書店の営業担当の方が注文した本を届けてくれるのです。注文してから納品までおよそ3週間くらいかかります。購入希望のあった本は早く納品してもらおうようお願いしていますので、少々お待ち下さいね。

また、当然タダで本は買えないので支払いもします。支払い金額が合わなくて岩になったり、ネガティブになったりすることもあります（笑）。けれど受入担当の目を通らない本はないというささやかな醍醐味(?)もあり、時々閲覧室に出没し、新着棚の本に予約がたくさんついていると「今週は良い仕事したぞー」とひそかに悦に入ることができます。

こうしてみると、なんだかとても地味な気がするでしょう？当たり前です！要するに受入は縁の下の力持ちなんですよ。みなさんが接するカウンター業務の他に、こんな仕事もあるんですよ。図書館の小さな謎が少し解けたでしょうか？ (K. T.)



データベースの紹介

国立国会図書館の雑誌記事索引検索データベースに加え、2003年10月から2つの記事索引検索データベース、Web OYA-bunko 大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版とJDreamが利用できるようになりました。お使いになってみましたか？レポートや卒業論文、修士論文等のテーマに合わせ、大いにご利用ください。

Web OYA-bunko 大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版

「大宅壮一文庫」は、評論家大宅壮一の蔵書をもとに明治から現在までの約1万種類60万冊の雑誌を所蔵する雑誌専門図書館です。Web OYA-bunko 大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版は、大宅壮一文庫が所蔵する主要雑誌の記事索引データベースです。週刊誌、総合誌、女性誌などの一般雑誌に掲載された記事索引を検索できます。多様な検索方法から、特定の人物や事柄について、記事のタイトル、執筆者、雑誌名、発行日、収録ページなどが調査できます。収録範囲は1988年から最新までの約180万件、月に1回のデータ更新で、約300誌1万数千件の最新情報を追加してアップデートされています。本学図書館ホームページのリンク集 → 各種研究機関 → Web-OYA-bunko雑誌記事索引検索Web版をクリックします。係がIDとパスワードを入力しますので、利用を希望する方はカウンターにお申し出ください。

JDream

JDream (呼称：ジェイドリーム) は、JST (科学技術振興機構) が提供しているデータベース、JST Document REtrieval system for Academic and Medical fieldsの略です。世界50数カ国から収集した科学技術、医学に関する、学術論文や解説的文章などの文献情報を幅広く検索できます。日本語の抄録がついている記事がほとんどで、本文を読まなくてもある程度の内容を押さえることができます。接続方法は本学図書館ホームページのリンク集 → 各種研究機関 → JDream → 名前を入力し接続ボタンをクリックします。学内からのみログインできます。

藤女子大学 図書館だより 第67号 2004.01

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770
<http://library.fujijoshi.ac.jp/index.html>